

令和 7 年 11 月 26 日

こども支援部会 報告

取り組み内容:

- ・部会「強度行動障害への理解」
- ・ワーキング「医療的ケア児支援の具体化」

参加者:

- ・部会(児童発達支援センター川西さくら園、兵庫県立カリヨンの丘特別支援学校、兵庫県伊丹健康福祉事務所、川西市訪問看護ステーション連絡協議会、川西市立川西養護学校、入園所相談課、インクルーシブ推進課、保健センター・予防歯科センター、こども若者相談センター、こども支援課)
- ・ワーキング(伊丹健康福祉事務所、川西養護学校、川西さくら園、保健センター・予防歯科センター、訪問看護ステーションとびら、こども支援課)

令和 7 年度の議題は、令和 6 年度に実施した『川西市医療的ケア児実態把握調査』の分析及び施策検討と、新たに「強度行動障害への理解」及び施策検討とした。医療的ケア児支援については、数年に跨り検討を行ってきたことから、ワーキングチームを作り重点的に検討することとした。

部会では、強度行動障害を有する児の家族が抱える過重な負担や、安全確保の難しさといった現状課題を踏まえ、支援体制の強化が急務であるとの認識を共有した。この課題に対する具体的なアクションとして、「強度行動障害に関する研修」(12 月 2 日)を開催する。講師には、強度行動障害や自閉症児者の支援に実績のある「障がい者支援施設 あかりの家」から派遣いただく。本研修では、障害特性や生活上の困難さ、特に児童期に必要な支援について理解を深めることを目的としている。また、本研修は部会員のみならず、市内の障害福祉サービス等事業所にも広く参加を呼びかけ、地域全体でのスキルアップを図る。研修同日には第 3 回部会を開催し、研修での学びを直ちに具体的な支援策の検討へと繋げていく。

新たに組織したワーキングチームでは、8 月から 11 月にかけて医療的ケア児支援について計 4 回の会議を実施。『実態把握調査』の集計結果を基に、今年度末には一つの成果を出すとともに、2029 年度には当事者家族が「生活の変化」を実感できる具体的解決策の実行を目標に掲げている。協議の中では、特に「災害時の避難体制(電源確保・避難訓練)」、「情報共有の仕組み(ガイドブック・共通フォーマット)」、「レスパイト資源の不足」が優先課題として抽出された。現在は、災害時対応の個別検討に加え、関係機関で情報を共有するための「川西版共通フォーマット」や「ガイドブック」の作成に向けた具体的な検討に着手している。

